

課題名：CO2削減と産業発展の両立を目指した企業経営・グリーンイノベーション・制度の探求

氏名：青島矢一

機関名：一橋大学

1. 研究の背景

90年比で25%の温室効果ガスの削減を実現するためには原子力発電所の増設が必須であると考えられていた。しかし、東日本大震災による原子力発電所の事故は、増設どころか、既存設備の運転さえも難しくしている。日本は、環境問題とエネルギー問題という相容れない課題を同時に解決しながら、さらに、経済発展までも実現しなければならない。この複雑な問題を解く鍵は、新しい環境・エネルギー関連産業の発展と、そこにおける、日本企業の競争力にあると考えられる。

2. 研究の目標

まず、環境・エネルギー関連産業(太陽光、地熱、火力タービン、燃料電池、水処理、ゴミ焼却に注目)における技術の特性と市場性の分析を行い、産業の発展可能性と競争上重要となる点を把握する。その上で、これらの産業における日本企業の現状を分析して、技術開発、市場戦略、経営組織上の問題点を明らかにして、今後に向けた対応策を提示する。その一方で、排出権取引がもたらす環境イノベーションと企業競争力への影響など、企業をとりまく制度的変化の影響も明らかにする。

3. 研究の特色

企業経営や技術開発の具体的な現場に深く入り込んで国際的な調査を行い、ミクロの視点から、環境問題、エネルギー問題と、産業政策、企業競争、外交政策との相互関係の分析を行うことに特色がある。

4. 将来的に期待される効果や応用分野

環境問題とエネルギー問題を同時に解決する新しい産業発展の可能性が明示され、そこで日本企業が進めるべき技術開発の方向と技術を価値化するための事業戦略上の留意点が共有される。また、環境政策の立案者が、産業競争力への影響に関する深い理解に基づいた的確な政策を立案できるようになることが期待される。企業経営や政策立案の適切な実行によって、環境問題とエネルギー問題を解決しつつ経済発展を維持することが、最終的に期待されることである。

